

令和8年度 全国学力・学習状況調査について

令和8年4月23日（木）に、小学校6年生及び中学校3年生を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」の結果が集計されました。本校の結果の概要をお知らせします。また、調査結果から本校で大切にしていきたい授業づくりの視点についてまとめました。

【国語】

分類		区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
				貴校	神奈川県（公立）	全国（公立）
全体			13	66	61	60.9
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	4	68.6	65.2	66.8
		(2) 情報の扱い方に関する事項	2	58.3	53.3	52.3
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	0			
	思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	71.3	66.9	65.8
		B 書くこと	2	53.9	46.3	45.7
		C 読むこと	2	69.3	66.2	65.9
評価の観点		知識・技能	6	65.2	61.2	62.0
		思考・判断・表現	7	65.8	60.8	60.1
		主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式		選択式	9	66.6	63.1	61.9
		短答式	2	64.5	59.6	62.6
		記述式	2	61.8	53.1	54.9

全国と比べて、国語、算数の平均正答率は66%となり、全国平均(60.9%)、神奈川県平均(61.0%)を上回る結果となりました。すべての領域で全国平均を上回っており、日常の学習活動の成果が表れています。

特に、「話すこと・聞くこと」(71.3%)、「読むこと」(69.3%)では高い正答率を示しました。発表や話し合い活動、資料を基に考えを交流する学習の積み重ねにより、目的や意図に応じて情報を整理し、自分の考えを表現する力が育っていることがうかがえます。また、「書くこと」についても53.9%と全国平均を上回りました。特に、資料から必要な情報を引用して自分の考えをまとめる問題では全国平均を大きく上回っており、自分の考えと根拠を関連付けて表現する力が定着していることが分かります。

一方で、漢字の書き取りでは「不思議」の表記問題の正答率が40.4%と低く、語彙や漢字を正確に活用する力に課題がみられました。また、情報と情報との関係を読み取る問題では個人差もみられるため、今後は文章を理解するために必要だと判断した複数の語句を丸や四角で囲んだり、関係する語句と語句とを線でつないだりするなど、目的に応じて、図示しながら情報を整理するよう指導を継続していく必要があります。

【算数】

分類		区分	対象問題数 (問)	平均正答率(%)		
				貴校	神奈川県（公立）	全国（公立）
全体			16	63	58	56.4
学習指導要領の領域	A 数と計算		8	68.3	62.6	61.1
	B 図形		4	61.4	57.0	55.3
	C 測定		1	86.8	79.7	78.1
	D 変化と関係		3	47.1	44.2	41.1
	D データの活用		4	58.1	49.4	48.6
評価の観点		知識・技能	12	66.2	61.6	60.1
		思考・判断・表現	4	53.7	46.2	45.4
		主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式		選択式	5	61.1	57.5	56.0
		短答式	8	66.4	61.2	59.7
		記述式	3	57.3	48.9	48.5

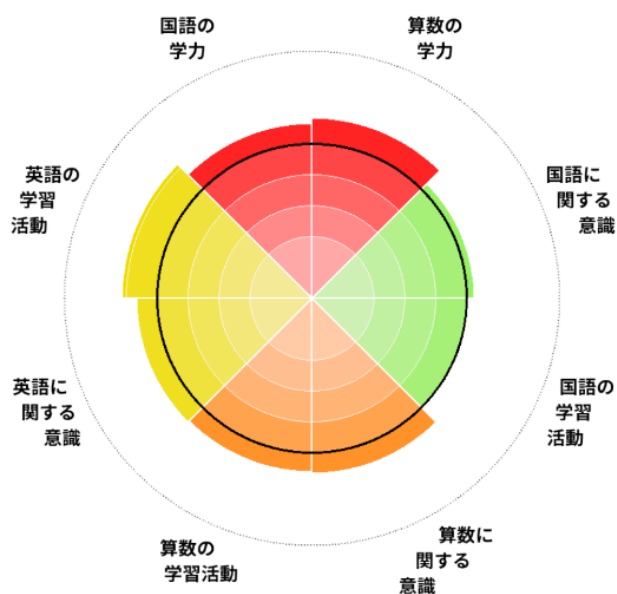
全国と比べて、平均正答率は 63%となり、全国平均(56.4%)、神奈川県平均(58.0%)を上回る結果となりました。領域別ではすべての領域で全国平均を上回っており、基礎的・基本的な知識及び技能が概ね定着していることが分かります。

特に、「測定」(86.8%)、「数と計算」(68.3%)では高い正答率でした。体積や時間、数量の関係を求める問題において、既習事項を活用して解決する力が身に付いていることがうかがえます。

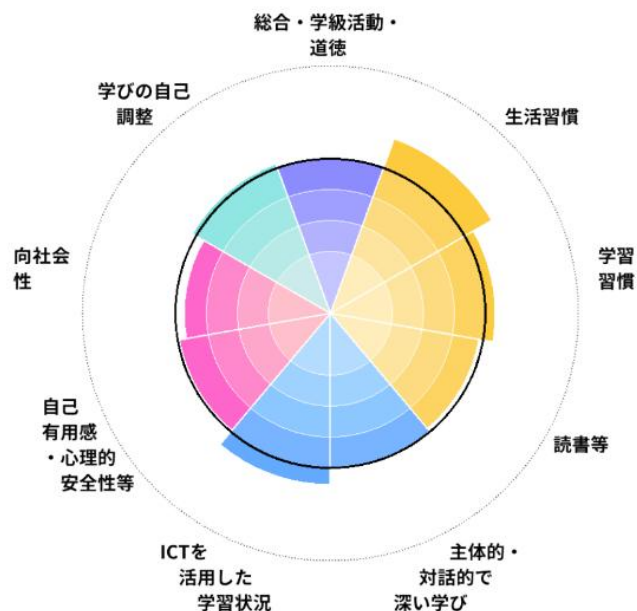
また、「データの活用」の領域でも全国平均を大きく上回っており、表やグラフなどから必要な情報を読み取り、問題解決に活用する力が育っていることが分かります。とりわけ、二次元表から条件に合う人数を読み取る問題では全国平均との差が大きく、情報を整理して考える力が成果として表れています。

一方で、「変化と関係」の領域は全領域の中では相対的に低く、割合や単位量当たりの大きさ、分数の意味を説明する問題に課題がみられました。また、理由を言葉や数を用いて説明する記述式問題では正答率が伸び悩んでおり、自分の考えを論理的に表現する力のさらなる育成が必要です。

〔教科を中心とした学力・学習状況〕
(全国基準)



〔その他の学力・学習状況（学習習慣、自己有用感等）〕
(全国基準)



○児童質問紙調査では、「学校が楽しい」「自分にはよいところがある」「友達と協力して学習に取り組んでいる」と感じている児童が多く、学習や学校生活に前向きに取り組んでいる様子が見られました。また、ICT 機器を活用して情報を集めたり整理したりする力についても高い結果が見られました。

○本校では、今回の調査結果から見られた成果と課題を踏まえ、今後も児童が主体的に学び、自ら考え、他者と協働しながら学習を進めることができるよう、授業改善と学習環境の充実に努めてまいります。